

# 校長通信

## Morifun

### <卒業に寄せて>

明日はいよいよ卒業式です。コロナ禍のため、昨年度と同様に規模を縮小しての式となるため、在校生の出席者は生徒会執行部のみとなります。本当に残念なことです。私が校長として本校に赴任してから3回目の卒業式ですが、1回目はコロナによる全国一律の休校宣言下で、急遽式は中止、式辞は一斉放送で、用意していた答辞と送辞はプリントで配布という形になりました。証書はHRで各担任から手渡されました。2回目の昨年度は密を避けるため生徒会執行部のみが在校生として出席、来賓もPTA会長さんのみというものでした。残念ながら、今年度も同様の形となります。三年生の晴れの姿をみんなで見送りたいところですが、仕方ありません。どうか心の中で旅立つ先輩にエールを送ってください。

### <遠い昔の卒業式のはなし>

40年以上前の確か3月8日。高校で身長が10cm以上伸びた私には制服がきつくてしょうがなかった。元々瘦せていて体重はそれほど増えなかったのだが、当時はヒートテックもフリースもない時代、冬の校舎は今よりもっと寒かったし、とにかく脂肪も少ないせい人より寒がりの私は、厚めのセーターやらを重ね着するしかなく、カラー(詰襟の学生服)どころか第1ボタンを留めるの

も至難の業であった。3組30番の私が整然と式場に入っていくと、私の前の友人が数人保護者席で会釈をしていた。誰かなと思ったら親父が座っていた。我が家は街中で商売をしていたせいもあり、友人たちの溜まり場の一つでもあった。親父は私の首元を指さしてボタンと口を動かしていた。あごを上げて何とかボタンを留める仕草に級友たちから笑いがこぼれた。仕事柄、当然式にはお袋が来ると思っていたので、親父の登場はサプライズであった。ツンツルテンの制服の私を見て何を思ったのだろうか。大学に合格したらブレザーとか買ってもらえるかなと期待したのを憶えている。実際は親父のお古の背広(今で言えばジャケットなのだが)を着ての入学式だった。いかり肩の親父となで肩の私、ある程度相殺されたが、フィット感は全然なかったな。あの頃せめてユニクロがあったなら…

さて、その年の卒業式は一風変わっていた。呼名をされても返事をせずにその場に黙って座っているという指示だったのだ。今も理由は謎なのだが、我々の代から45人8クラス編成ということで、歴代最高の生徒数ということが関係していたのかもしれない。式のスピードアップを図ったのかもしれない。そういえば大学も返事はしなかったな。私個人としてみれば人前で声を出すのは苦手な方だったので(声変わりが人よりだいぶ遅かったことに起因するのだが)、特に支障はなかった。ところが、1組の途中でSという男子生徒が体育館中に響き渡る声で返事をしたものだから、卒業生の我々は笑いをこらえるのに必死であった。緊張から思わず返事をしてしまったのか、ただ目立ちただけなのか、これも未だに謎のままである。

誰が代表として証書を受領したのか、誰が答辞を読んだのか、恥ずかしながら記憶にない。最後に校歌を声高らかに歌い上げたのだけは記憶している。そして一通り式が終了すると、その場ですぐに恐らく生徒会主催によるちょっとくだけた式(卒業生と在校生とが向かい合って送別会のようなもの)に替わるのであった。その中に

は誰が名付けたのか「裏答辞」というものがあった、卒業学年で一番目立つ生徒が読むことになっていた。我が代は同じクラスのAであった。ちなみに彼とは3年間同じクラス、今でも親友というか悪友の一人である。彼はトイレトペーパーに答辞を書いてきた。入学時からの様々な行事、勿論甲子園のこと、なぜ3年生の時に行けなかったか、同じクラスにいたピッチャーのノーコンを嘆き、代表的な生徒たちの恋愛話や悪事を暴き、教科担任の口癖から授業の評価まで好き放題に話しまくり、場内は大笑いに包まれたのであった。

最後はくす玉が割れ、エール交換、応援歌を唄い、そして在校生の間をジグザグに歩いて、握手をしたり胴上げされたりと、第2ボタンを奪われることはなかったが、退場までに相当な時間がかかったのを憶えている。呼名の返事なしはこれを見込んだものだったのかもしれない。この日だけは先生方もアンタッチャブルであった。

式の後、誰とどうやって帰ったのかは全く記憶にない。私の時代は国公立の1期校の入試が3月3日~4日、2期校が3月23~24日頃であったので、私大専願以外の生徒はまだ進学先も決まっておらず、なかなか卒業の余韻に浸っているわけにもいかなかったのが実情だ。ましてや私の場合、進路先が決まったのは年度を跨いでのことだったので、1期校に落ちてはがっくりきたり、また気を奮い起こして2期校の受験に挑んだりと怒濤の日々を送っていたのである。今ではそれも良い思い出である。

知る人ぞ知るの昔話でした。明日、式辞で卒業生への想いをちゃんと伝えます!



## 卒業生各賞受賞者

各賞の受賞者の皆さんです。それぞれ文武両道の実践に取り組みました。おめでとうございます！（敬称略）

理事長賞	渡邊 翔真
日本私立中学高等 学校連合会会長賞	樽林 凜
功労賞	伊藤 匠 大宮 大虎 杉山 治樹 安部 将矢 熊谷 恒汰 土屋 琉空 若林 夢希 金子 京介 田屋 瑛人 山田 拓巳
答辞・記念品贈呈の辞	剣持 太洋

### <礼拝より> 花巻教会牧師・鈴木道也先生

#### 新約聖書 ヨハネによる福音書 15章 12 - 17 節

この学校の礼拝でもよく歌っている賛美歌に、『いつくしみ深い』（493 番）があります。日本でも最も知られている賛美歌の一つです。この賛美歌の特徴は、イエス・キリストを「友」と呼んでいるところです。《いつくしみ深い 友なるイエスは……》。キリスト教はイエス・キリストを神として信仰しているわけですが、この曲では同時に私たちにとってまことの友であると謳われています。いつも自分のそばにいて悩みを何でも聞いてくれる親友（ベスト・フレンド）として受けとめているのですね。

私たちにとって、「友」とはどのような存在でしょうか。いろいろな定義ができると思いますが、たとえば、「自分の存在を重んじてくれる人」と言うことができるのではないのでしょうか。自分の人格を尊重し、自分の存在を重んじてくれる人です。どれだけ互いに軽口や冗談を言い合っている、自分のことを重んじてくれている（大切にしてくれている）と確かに感じるができるとき、私たちはその人のことを友達だと思うのではないのでしょうか。

冒頭で朗読したヨハネによる福音書の 15 章 12 節に、『わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい』というイエス・キリストの言葉がありました。本日はこの言葉を、「主イエスが私たちを重んじてくださったように、

私たちも互いを重んじあう」ことの大切さを語る言葉として受け止めたいと思います。そして聖書が語っているのは、イエス・キリストこそ、私たち一人ひとりの存在を重んじてくださっている方であることです。

もちろん、自分が相手のことを重んじようと努めても、相手にその気持ちがない場合もあるでしょう。相手が自分のことを軽んじているのに、それでもその人の「友」でい続けようとするのは、私たちには難しいものです。場合によっては、自分を軽んじ傷つけてくる相手とは物理的・精神的に距離を取ることも必要なこともあります。また、他者を軽んじる言動に対して「否」を言うことも、私たちには大切なことです。誰かが軽んじられ傷つけられている現実に対しては、はっきりと「否」を言う必要があります。

「互いに重んじ合う」ことは、必ずしも「誰とでも仲良くする」ことを意味するものではありません。大切なのは、目の前にいる人が誰であっても、その人格を重んじようとする姿勢です。敬意（リスペクト）をもって接しようとする姿勢です。少なくとも、自分から相手のことを軽んじるようなことはしない。意地悪をしたり、相手を傷つけるような行為はしない。そう心に決めている姿勢が、大切であるのだと思います。

私たちが少しずつでも、互いに互いを重んじ合いながら歩んでゆけることを願っています。（1月25日）

#### 新約聖書 ルカによる福音書 8章 4節～8節 11節～15節

この、「種を蒔く人」では種が神様の言葉、そして蒔かれた土が私たちの心を表しています。種を蒔くイメージは、一粒一粒蒔くのではなく、当時は種袋の中から、たくさんの種を掴んで振り撒くようなものでした。そうすると中には、耕した畝に落ちずに、道端に転がり落ちることもありましたが、例えば石がいっぱいある砂利のところに落ちた種は育たない、土の上に落ちて鳥がやって来て食べてしまふ、茨の中に落ちて育たない、とされています。良い土地に落ちた種は百倍の実を結んだとされています。

土は私たちの心ですから、良い土地というのは、神様の言葉を受け入れることです。神様の言葉を種として表して

いますが、すぐに効果が出る薬とかではなくて、蒔いてしばらくして時間が掛かる種として表しているところに注目したいと思います。良い土地というのは、たとえ時間が掛かっても、その蒔かれた種をじっくりと受け止めて育むことができる。

このことに合わせて一つの言葉を紹介したいと思います。このコロナ禍の中でも注目されている言葉で、ネガティブ・ケイパビリティという言葉です。消極的な能力と訳すことができます。答えの出ない状況があるときに、すぐに答えを出すのではなく、その答えの出ない状況に耐える力がネガティブ・ケイパビリティです。コロナ禍の中でこの言葉が私たちの中で大事なのではないかとされています。

コロナも 3 年目に入り、本当に色々な苦労があったと思われませんが、「どうしたらいいかわからない」「解決策がすぐに見つからない」などいろんなことに直面しました。なかなか答えの出ない状況の時でも、その状況に向かい合い続ける。たとえ今は問題が解決できなくても、耐えているうちに、そのうち自然と解決する、そのために何とか持ちこたえる。普段は問題があるとすぐに解決する問題解決能力が大事といわれますが、こういう大変な状況ではむしろ、すぐに解決できなくても状況を耐えていくことも、とても大事なことなのではないかと思えます。

聖書には難しい言葉が多いですね。イメージでいうと、聖書には人生の答えが書いてあるのかなという感じがしますが、時間が経ってから少しずつ効果が出てくるような言葉なのかもしれません。そういう意味では、むしろ分からないこと、疑問とか違和感を自分なりに大事に考え続けることが大事なのかなと思います。考えも深まって、心とした時に答えが見つかるかもしれません。

皆さんも色々な悩みとか、なかなか解決できないことがあると思いますが、たとえ今は解決できなくても、それでも耐えていく、その力が大事なものだし、むしろその力こそ生きていく上で必要な力だと思えます。そして耐えていくうちに答えはきっと見つかると思っています。

（2月8日）